

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ととてのキッズ 児童発達支援		公表日		2025年 3月 31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	0	利用児定員と必要面積は確保できている。必要に応じて部屋を区切って使用したりしている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	0	子どもの数、状態、活動内容に応じて、職員配置の調整を行なっている。 職員配置は基準より多く配置している。 送迎を手伝ってもらったりして工夫していると思う。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	0	イラスト等を用いて理解しやすいようにしている。 バリアフリーになっている。 来所したあとの荷物の整理など、自分の名前と場所を確認しながら習慣化できている。 部屋の戸・棚の収納箱に絵で印をつけて、伝わりやすくしている。 ホワイトボードを活用して、利用児に分かりやすく資格提示を行っている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	0	子ども達の活動に合わせて使用できるようにしている。清掃は毎日行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	2	小集団では、子どもが感情的になった時に、クールダウンできるスペースや仕切りが定まっていない。 パーテーションやカーテンで区切り、使用している。 お子さんの状況に合わせて選べるようにしている。 せまくても良いので仕切りのあるクールダウンできる部屋がもっとあると思う。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	1	必要時に職員同士で話す事が出来ていると思う。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	集計結果を受けてミーティングを開き次年度の計画に反映している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	その都度共有し、適切な対応を心掛けている。 毎月の業務会議時に課題や意見を共有できるようにしている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	9		第三者委員は検討中です。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	年間を通じて研修計画を立案し、月に1回以上は事業所内研修を実施している。 動画を流してもらったりと、十分に確保してもらっている。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	1	今後、公表まで実施予定。 公表はこれから。		

適切な支援の提供	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9	0	リハビリ専門職の評価と保護者の評価を受けて個別支援計画を作成している。 保護者に対してもHugアプリ上で必要時にやり取りが行えるため、ニーズや課題を認識しやすい。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	0		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	0	5領域に沿った評価表を、事業所内で共有し活用している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	1	活動会議を月1回行い、他事業所も含めたところで共同できる活動は共有し立案している。 必要時に職員同士で話し合うことが出来ていると思う。 話し合う時間がなかなか取れていない。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	5領域に沿ったプログラムを立案している。 他職員の意見も参考にしながら、子どもに合った必要なプログラムを提供するようにしている。 他セラピストの支援内容などを参考にしたり、研修会で得たものなど参考している。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9	0	個別・集団療育の週の予定表を作成し実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	1	必ずはできていないが、そのような場合は個々に行っている。 毎朝朝礼を実施し共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	2	利用児退所後本日の振り返りと共有を実施している。 帰園後に、職員間で申し送る時間があるため、共有しやすくなった。 全員ではできていないので、最低でも週に一回は時間を設けたい。 必ずではないが、気付いた点、反省点などを共有している。時間が取れない事もある。 短時間療育での子どもさんの送り出しの後、個別担当・小集団担当が集まり支援の振り返りを行なっている。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	0	Hugを使用し、行なっている。 Hugアプリにて実施できている。		
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0			

関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0	会議の内容に応じた参加職員に努めている	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	0		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	0		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	0	引継ぎシートを活用したり、直接小学校等の先生に引き継ぎの連絡事項をお伝えする場を設けている。 学校からの引継ぎシートの活用や、学校から先生が来られた時に支援内容を情報提供している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	9	0		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	9	0	たまご保育園との合同の活動を実施している。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	Hugアプリを使用。 Hugアプリや、送迎時に必要に合わせて伝え合うことが出来ている。 アプリを活用して写真も含めた支援状況の報告を行い、また家族からのご意見も頂けるようにしている。 Hugアプリを通して行った活動や様子を発信している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	0	年間保護者支援プログラムを立てて交流会・勉強会を実施している。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	0			
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	個別相談会を年に数回実施し希望を取っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	0	交流会やきょうだい児も参加できる企画も実施している。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0	相談に応じた職員で対応している。 相談希望には随時面談をしているが、アナウンスが足りないのか申し入れは少ない。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	0	毎月キッズだよりを発行している。 必要時にはアプリを活用し一斉配信も行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0	個人情報の取り扱いについては、保護者の希望や合意をいただき対応している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0	電話連絡やアプリでの連絡など情報伝達のための選択ができるようにしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	0	避難訓練やもちつき、お楽しみ会など地域の方々も参加できる催しを実施している。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0	小集団療育の中でも、毎月工夫しながら実施してもらっている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	0	必要に応じて主治医からの情報提供書をいただいで対応している。 事前情報として共有してもらっている	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	0	主治医のアレルギーについての情報提供書をもとに、管理栄養士・協力医療機関と連携を取りながら安全な食事やおやつ提供に努めている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0	実施し、実施内容は保護者へお伝えしている。 上記@と同様。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	0	日々の実施内容報告やキッズだより等で周知している	
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	毎朝、ヒヤリハットの共有を行い再発防止に努めている。 ヒヤリハットを記録する外、迅速に対応できる様、児童送り出しの後の申し送りの際にそれを共有している。		

52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0	虐待・身体拘束の研修を実施している。年に2回虐待の芽チェックリストを用いてアンケートを実施し、業務改善に努めている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9	0		